



1_ 事前合宿の宿泊先である国立磐梯青少年交流の家で町関係者から到着の歓迎を受けるガーナ選手団 2_ ガーナ国旗を振って競泳選手を応援する吾妻小学校3、4年生の児童の皆さん。選手たちは、児童の声援に笑顔で応えた 3_ 吾妻中学校のプールサイドには、同校の生徒が英語で書いた応援メッセージが張り出された 4_ オリンピック本番に向けてトレーニングを行うウエイトリフティング男子96㎏級のクリスチャン・アモア選手 5_ 河東総合体育館でサンドバッグを打ち込むボクシングの3選手



五輪ガーナ選手団 本町で事前合宿

ガーナ選手団が本町で事前合宿

東京オリンピックに出場するガーナ選手団の事前合宿は7月2日から17日まで、ホストタウンである本町で行われました。事前合宿で来町したのは競泳、ボクシング、ウエイトリフティングに出場する3競技の選手6人とコーチら10人の計16人です。

選手団は、7月2日午前に成田空港に到着。空港で抗原検査を受け、全員の陰性を確認した後に宿泊先である国立磐梯青少年交流の家に移りました。同施設では、前後公町長や町議会議員らが日本・ガーナ両国の国旗を振って出迎え、選手団を歓迎しました。ガーナの選手たちは移動の疲れを見せることなく、手を振って応えました。

前後公町長は「コロナ禍で町民の皆さんと一緒に迎えることができず残念ですが、野口英世博士の古里としてガーナ選手団を全力で応援します」と歓迎のあいさつを述べました。

選手団は入国後の2週間、毎日抗原検査を受け、宿泊先では食事場所や出入り口などを他の利用者と別にして接触しないよう徹底しました。

練習会場は、競技種目別に3

会場が準備され、競泳は吾妻中学校プール、ボクシングは会津若松市の河東総合体育館、ウエイトリフティングはカメリーナを主な会場としてトレーニングが行われました。

このうち、吾妻中学校のプールでは、男子100メートルバタフライのアベイク・ジャクソン選手と女子50メートル自由形のウニレズ・イエボワ・タキイ選手がトレーニングを行いました。プールサイドには同校の生徒が英語で書いた応援メッセージが掲げられ、選手の士気を鼓舞しました。

ガーナオリンピック選手団には、本町で英語指導手を務めたフォーチュネイト・セイラム・アドウクボさんがスタッフとしてチームに帯同。セイラムさんは「東京オリンピックのためにガーナには帰国せず、日本で働いていました。事前合宿を通じて、久しぶりに猪苗代町に里帰りすることができてうれしいです」と笑顔を見せました。

マイケル・オドム・アグレイ団長から届いたお礼のメッセージを紹介します

猪苗代町の皆さんからのガーナ選手団への盛大な歓迎やおもてなし、そしてたくさんの贈り物に心から感謝の意を表します。

私たちは、この美しい町でオリンピックの事前トレーニングを行っている間に、持ち帰ることができないほどの温かい思い出とおもてなし、歓迎を受けました。

皆さんのご支援に感謝するとともに、近い将来に再会できることを楽しみにしています。

ガーナ選手団を代表して、皆さんに「AYEKOO(お疲れ様です)」と申し上げます。

ガーナオリンピック委員会選手団
団長 マイケル・オドム・アグレイ

